

COM de KEY



操作説明書

(V1. 20)

第 8 版

2014.09.01

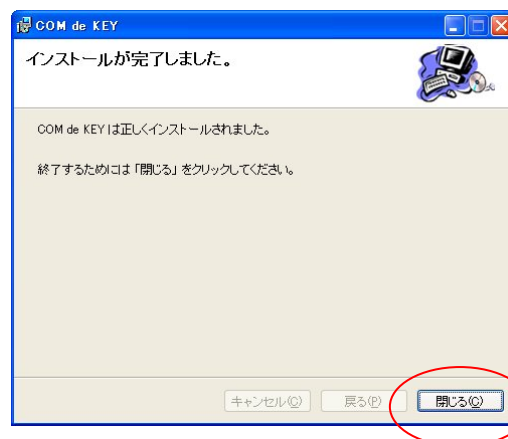
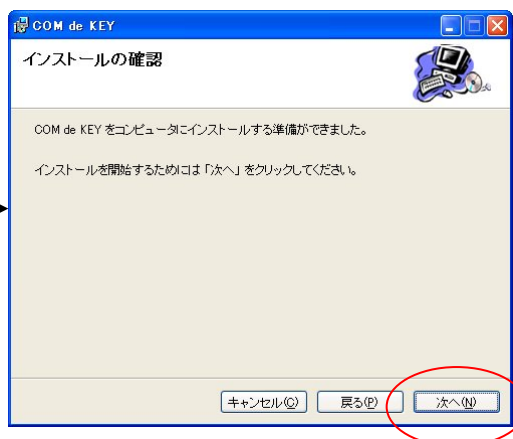
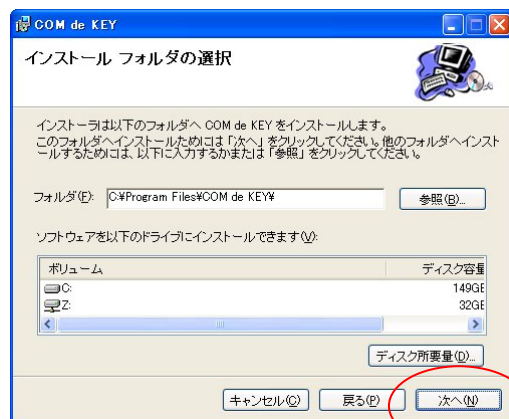
株式会社アイテックス

目 次

1. インストール	1
2. 起動&メニュー	2
3. モニタ表示	3
4. 設定画面	4
4-1. 通信設定画面	5
4-2. 受信データフォーマット設定画面	7
4-3. キー転送フォーマット設定画面	8
4-4. バーコード設定画面	11
4-5. 動作設定画面	12
4-6. ファイル設定画面	13
5. 高度なご利用方法	14
5-1. 上位側からのコントロール	14
5-2. 2キーを組み合わせて送信	14
6. こんなときは?	15

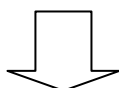
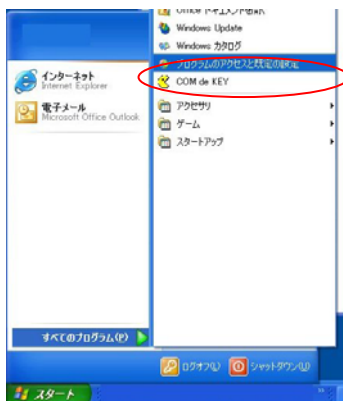
1. インストール

COM de KEYのCDをインストールするPCに挿入します。セットアッププログラムが自動起動します。
※もし自動起動しない場合は、CD内の「SETUP.EXE」を起動してください。

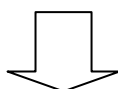


2. 起動&メニュー

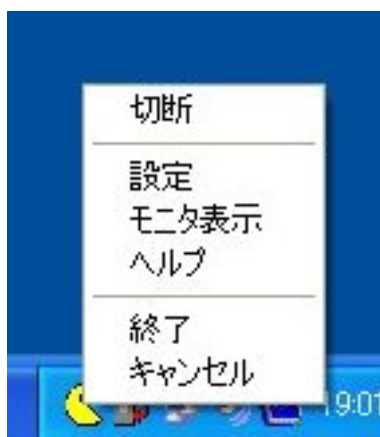
スタートメニューより「COMdeKEY」を起動します。タスクトレイに接続状態のアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックすると、ポップアップメニューが開き設定などを行うことができます。



COM de KEYを選択。



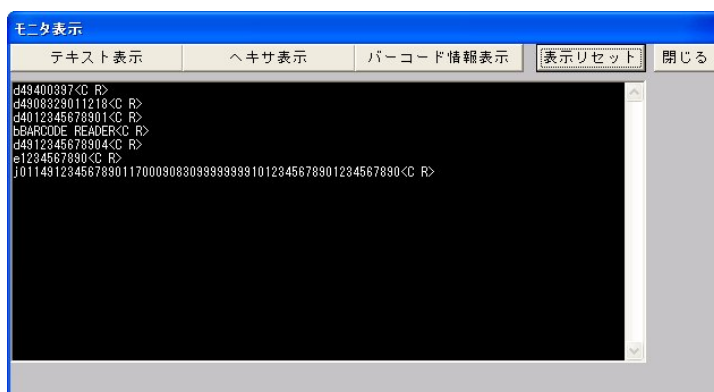
ダブルクリック。



接続／切断：コムポートとの接続切断を行います。
 設定：コムポートやソフトの動作設定を行います。
 モニタ表示：通信状況やバーコード内容が確認できます。
 ヘルプ：バージョン情報などです。
 終了：COMdeKEYを終了します。
 キャンセル：ポップアップメニューを閉じます。

3. モニタ表示

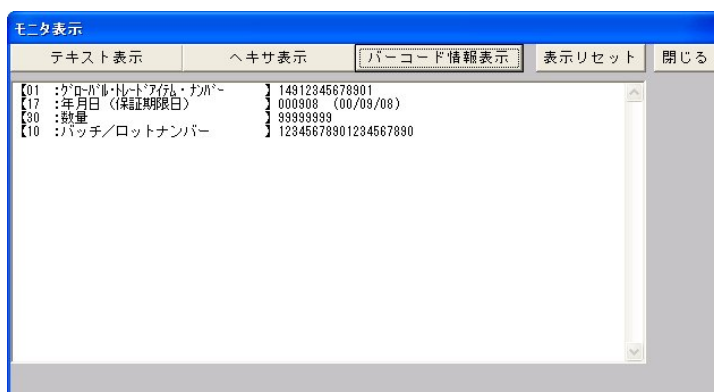
ポップアップメニューより「モニタ表示」を起動します。RS 232Cとの通信状況画面が表示されます。**テキスト表示**、**ヘキサ表示**、**バーコード情報表示**のボタンをクリックすることにより、それぞれの表示画面に切り替わります。**表示リセット**ボタンで通信履歴の表示をクリアします。



テキスト表示画面です。受信したデータが文字列で表示されます。改行コードなどは、<CR>のようにASCIIコード表に基づき置き換えられて表示されます。



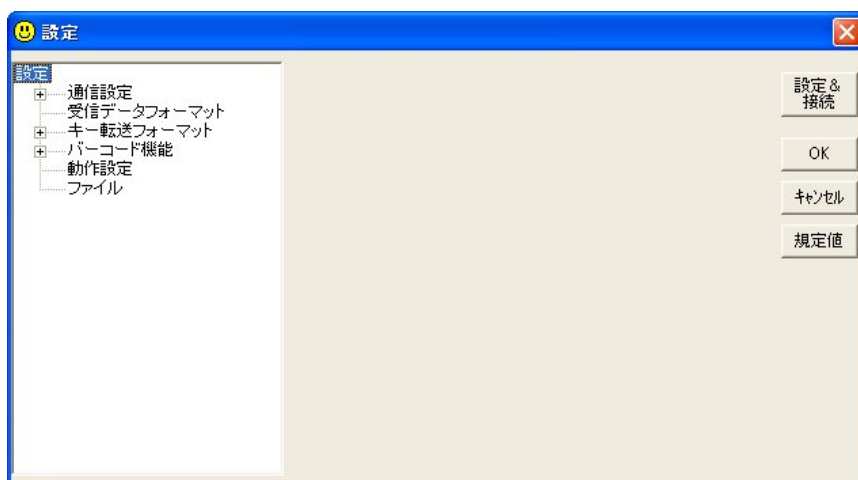
ヘキサ表示画面です。受信したデータがヘキサコードで表示されます。



バーコード情報表示画面です。EAN128などのバーコード内の情報が表示されます。

4. 設定画面

ポップアップメニューより「設定」を起動します。設定画面が表示されます。通信設定やデータ編集などCOMdeKEYに関する設定は、こちらから行います。



設定画面の初期表示です。

設定したい項目をクリックすると、各設定画面が表示されます。

+をクリックすると、各設定の詳細設定項目が表示されます。

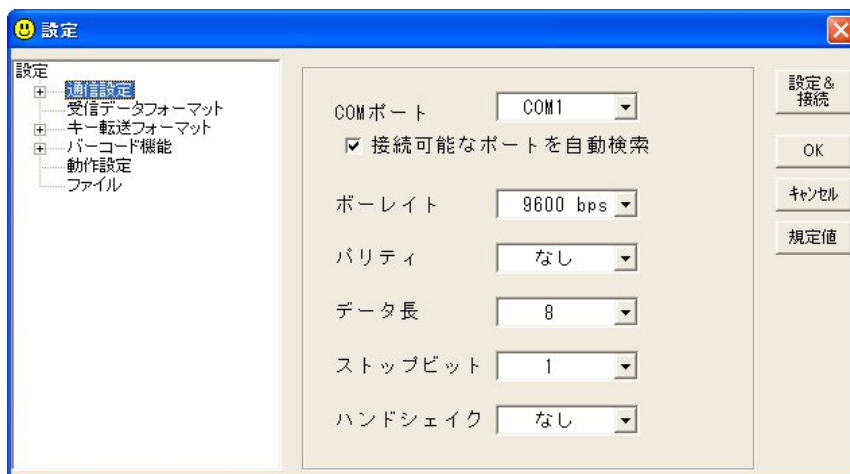
設定 & 接続ボタン : 設定内容を反映させ、接続を開始します。

OKボタン : 設定内容を反映させ設定終了します。

キャンセルボタン : 設定内容を反映させずに設定終了します。

規定値ボタン : 全ての設定をデフォルトにします。(反映はさせません)

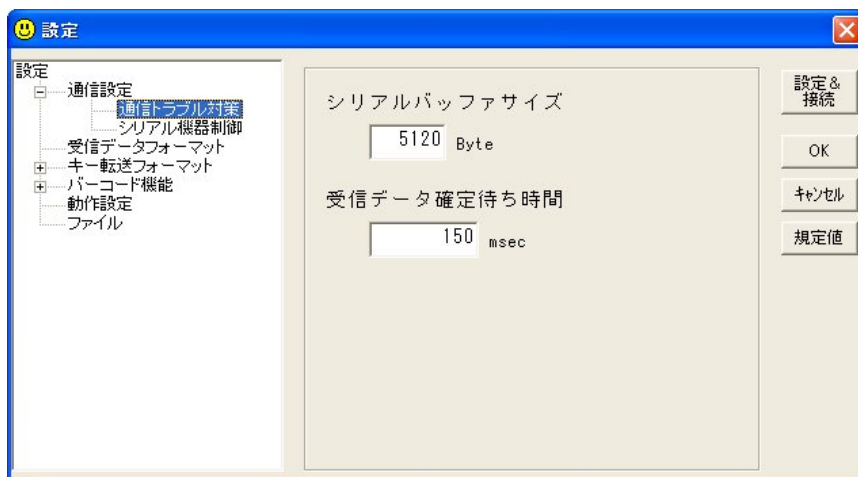
4-1. 通信設定画面



シリアル機器との通信設定です。

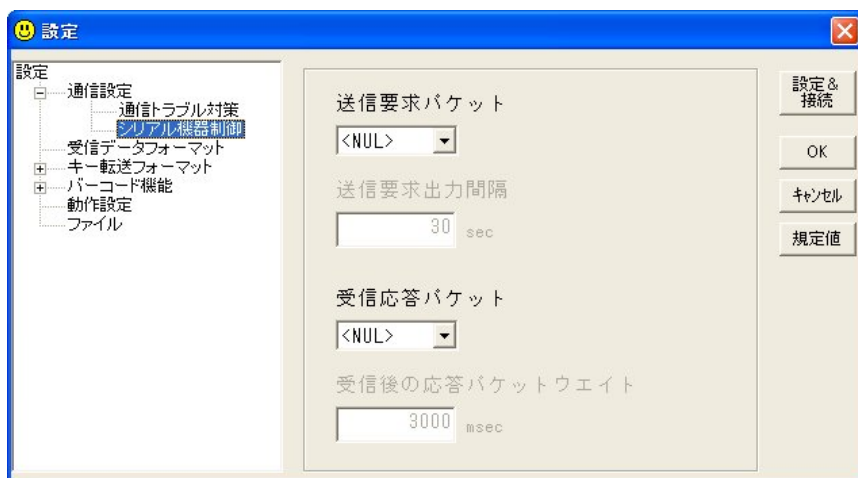
- ポート** : データ受信する機器を接続するポートを指定してください。
接続可能なポートを自動検索 : COM16 から自動的に接続可能なポートを検索し接続します。
※ポート設定は、反映されませんのでご注意ください。
- ポーレート** : 通信速度の設定です。
パリティ : パリティの設定です。(なし、偶数、奇数)
データ長 : データ長の設定です。(4~8)
ストップビット : ストップビットの設定です。(1、1.5、2)
ハンドシェイク : 非同期通信を行う際のデータ送受信のやり取りです。
(Xon/Xoff、RTS/CTS)

※ 通信機器と必ず一致させてください。



通信トラブル対策の設定です。
データが途切れる。データの扱いにズレが生じている時など、設定変更します。

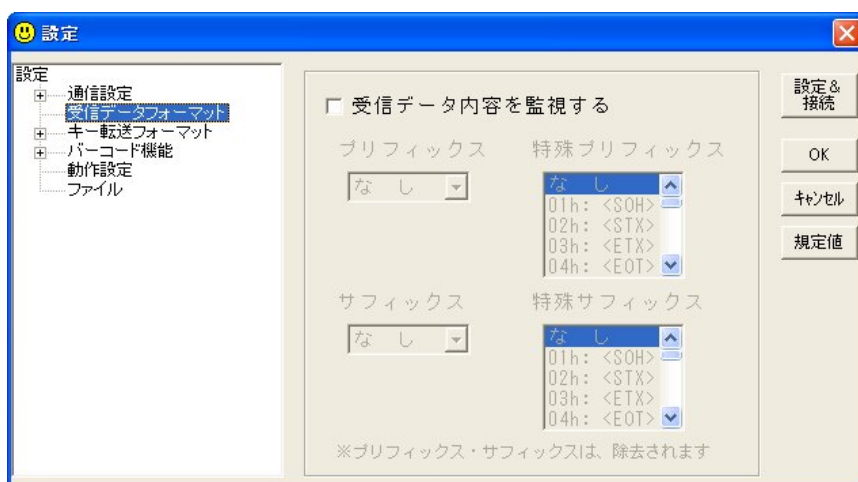
- シリアルバッファサイズ** : 大量のデータが機器から送信される場合、大きい数値を設定してください。
- 受信データ確定待ち時間** : データが途切れて送信される場合、こちらの数値を大きくしてください。逆にデータ単位が連なってしまう場合、こちらの数値を少なくしてください。



シリアル機器を制御するためのプロトコル設定です。
機器にデータ送信要求や受信応答が必要な時に設定します。

- 送信要求パケット** : データ送信を催促するパケットを送信します。(NUL は送信しません)
- 送信要求出力時間** : 送信要求パケットをポーリングする間隔です。
- 受信応答パケット** : データ受信した事を知らせるパケットを送信します。(NUL は送信しません)
- 受信後の応答パケットウエイト** : データ受信してから、受信応答パケットを送信するまでの待ち時間です。

4-2. 受信データフォーマット設定画面



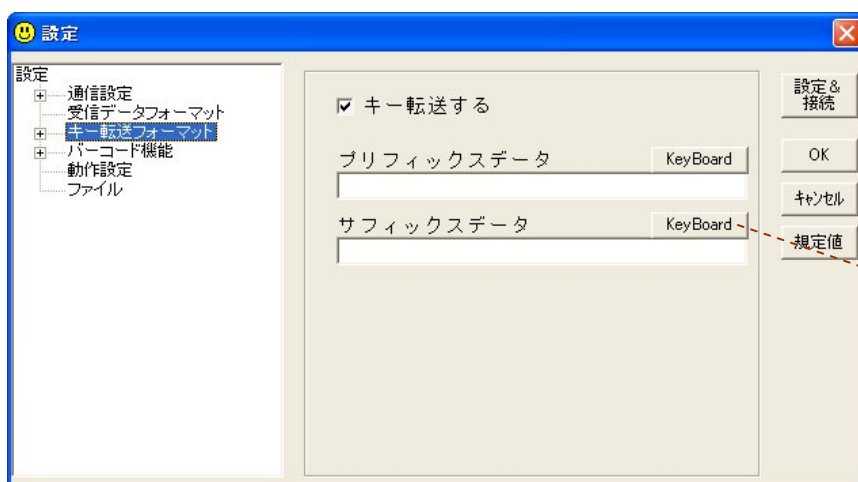
受信データフォーマットの設定です。

受信データを監視し、フォーマット以外のデータは、読み捨てます。

また、設定されているプリフィックス・サフィックス部分のデータを取り除きます。

- 受信データ内容を監視する** : 受信データフォーマットを設定する場合チェックをつけてください。
プリフィックス : データの先頭に付加されている文字です。
サフィックス : データの最後に付加されている文字です。

4-3. キー転送フォーマット設定画面

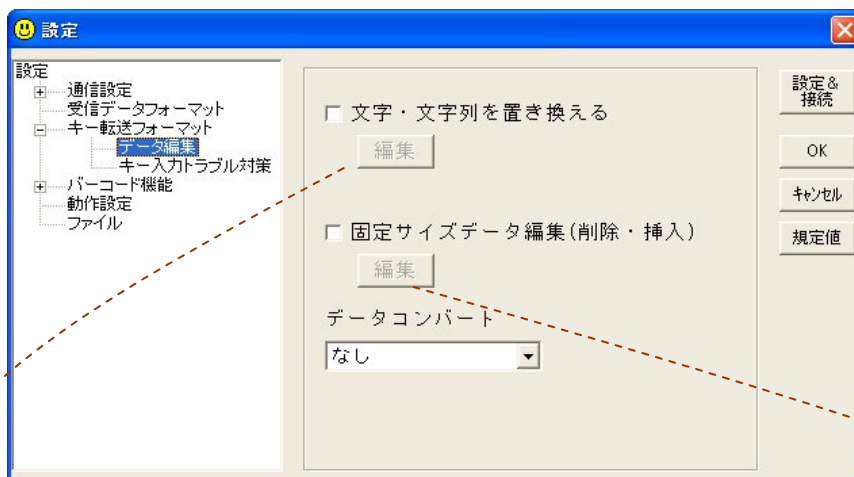


キー転送するデータフォーマットの設定です。
 キー転送を止めることができます。
 データの先頭や最後に特殊キー入力・文字列など付加してキー転送することができます。

- キー転送する** : キー転送する／しないの設定です。
プリフィックス : データの先頭に特殊キー・文字列を付加します。
サフィックス : データの最後に特殊キー・文字列を付加します。

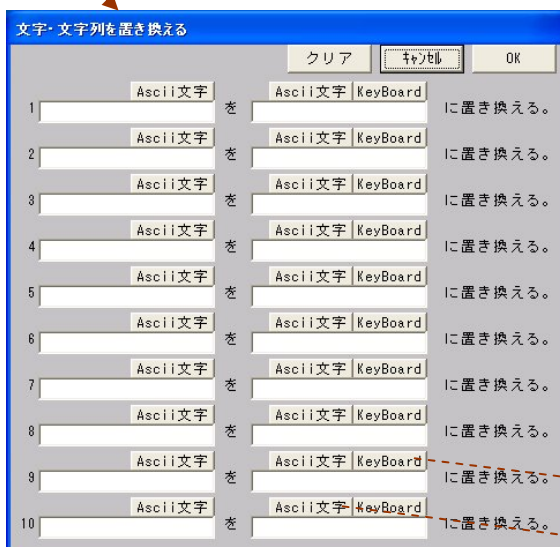


特殊キーの設定です。
 挿入したいキーをクリックして選択してください。

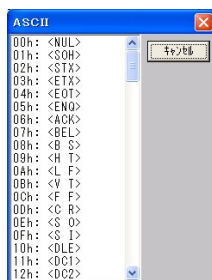


キー転送するデータの編集設定です。
 特定データの置き換えや固定位置の削除や挿入を設定します。
 大文字から小文字などのデータ変換が設定できます。

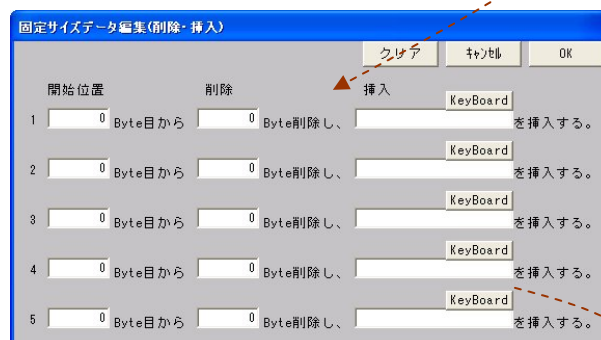
文字・文字列を置き換える : 文字列の置き換えする／しないの設定です。
固定サイズデータ編集 : 固定位置の削除・挿入する／しないの設定です。
データコンバート : 大文字から小文字などデータを一括変換します。
 (小文字⇄大文字、半角⇄全角)



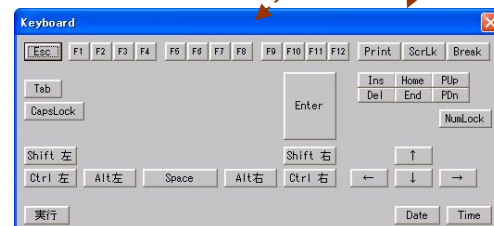
文字列置き換えの設定です。
 左に検索文字列を右側に置換文字列を入力してください。
 空文字列にすると、検索文字列の削除と同じ扱いになります。



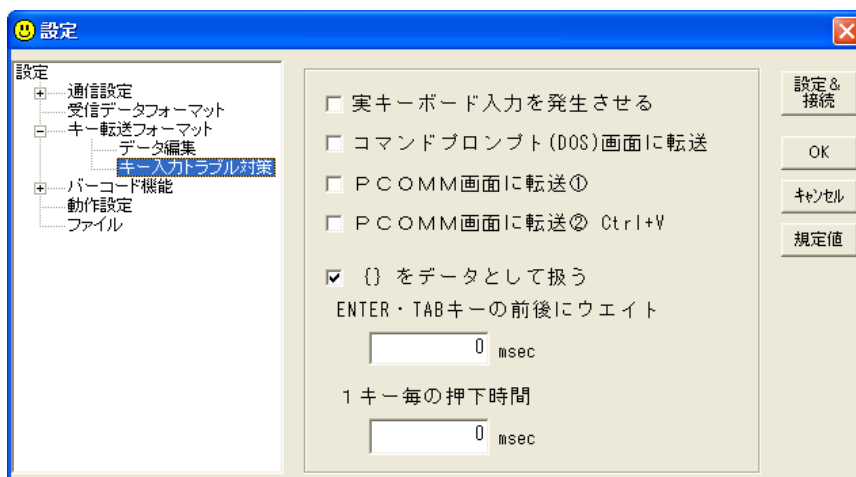
Ascii文字の選択です。
 挿入したいコードをダブルクリックしてください。



固定サイズ位置への削除・挿入設定です。
 開始位置をバイト数で設定し、削除するバイト数や挿入する文字列を入力してください。



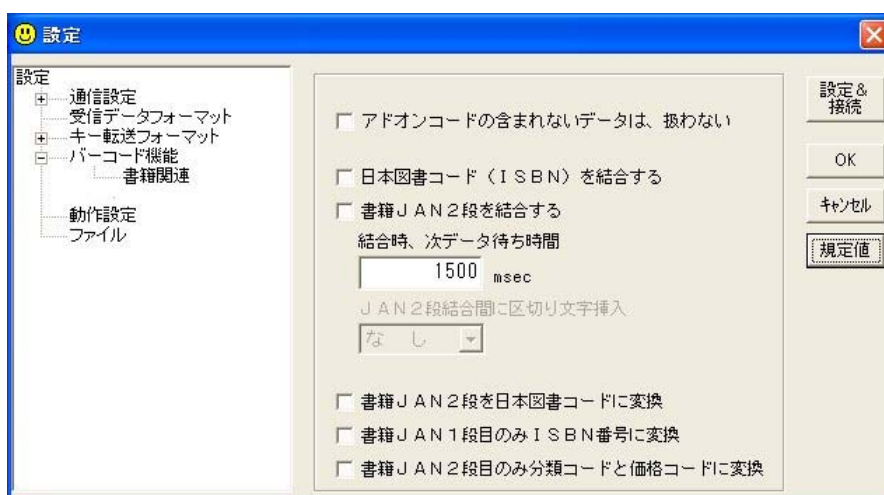
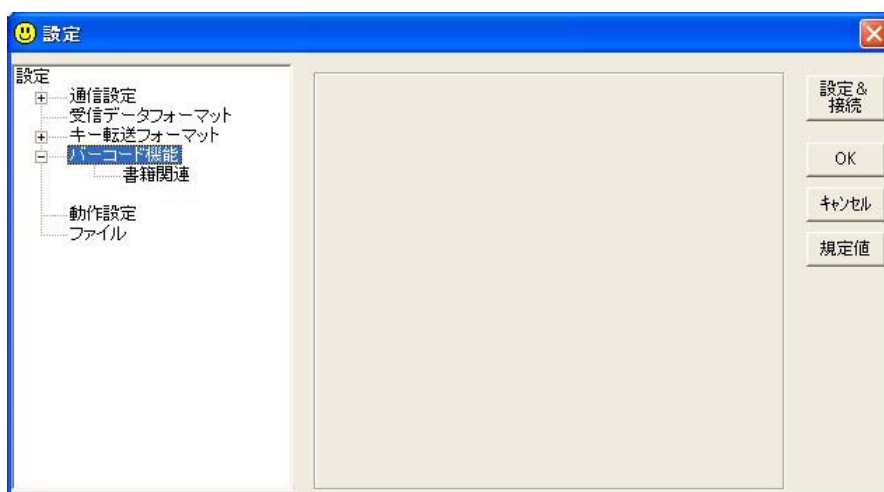
特殊キーの設定です。
 挿入したいキーをクリックして選択してください。



キー入力トラブル対策の設定です。
転送したい相手先（ソフト）に思い通りに転送ができない時に設定してください。

- | | |
|-----------------------------|---|
| 実キーボード入力が発生させる | : キーボードイベントを強制的に発生させます。メモ帳などでは受信でき、ソフト（エミュレーションソフトなど）で、キー入力がされない場合、こちらを設定してください。
※実キーボードイメージです。日本語は使用できません！ |
| コマンドプロンプト画面に転送 | : コマンドプロンプトの画面にキー転送します。
※コマンドプロンプト以外では、使用できなくなります！ |
| PCOMM 1 画面に転送 | : PCOMMの画面に転送します。
※PCOMM以外では、使用できなくなります！ |
| PCOMM 2 画面に転送 | : PCOMMの画面に転送します。
※PCOMM側で Ctrl+V キーでデータ貼り付けが行えるよう設定してください。 |
| ENTER・TAB キーの前後にウエイト | : 相手側ソフトに ENTER・TAB キーなどで更新時間が必要な場合、待ち時間を変更してください。 |
| 1 キー毎の押下時間 | : 相手側ソフトにキー入力チェックなどが入っており、異常にキー転送時間が掛かったり、データが欠落などする場合変更してください。 |

4-4. バーコード設定画面



バーコード機能の設定です。
使用する機能にチェックをつけてください。

アドオンコードの含まれないデータは、扱わない : 「491***」のようなアドオンコードデータで、13桁のみ受信されなかった場合、キー転送しません。

日本図書コード (ISBN) を結合する : 2つのデータを「ISBN4*** C*** ¥***E」のように結合及び並び替えをします。

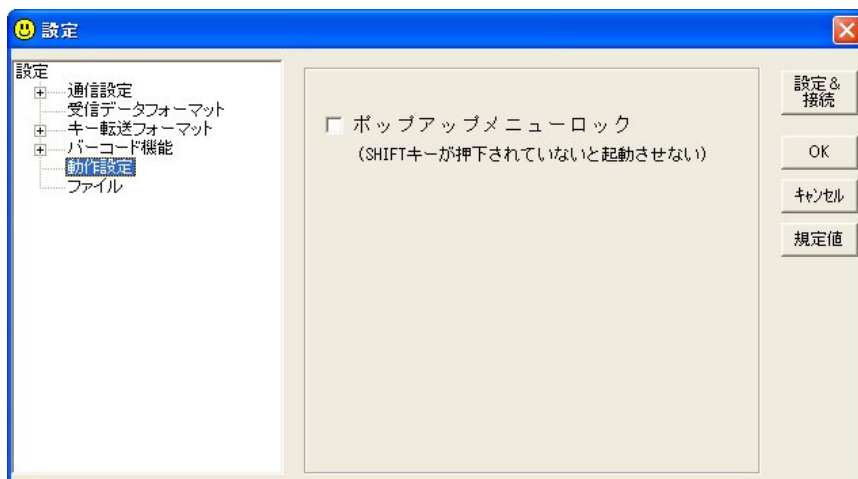
書籍 JAN2 段を結合する : 2つのデータを「9784***19***」のように結合及び並び替えをします。
次データ待ち時間 : 書籍2段、ISBNで次のデータが受信されるまでの待ち時間です。
区切り文字挿入 : 書籍2段で1段目と2段目の間にカンマなどの文字を挿入できます。

書籍 JAN2 段を ISBN に変換 : 書籍2段のデータを「ISBN4*** C*** ¥***E」のように変換します。

書籍 JAN1 段目のみ ISBN 番号に変換 : 書籍2段の1段目のデータを「ISBN4***」のように変換します。

書籍 JAN2 段目のみ分類コードと価格コードに変換 : 書籍2段の2段目のデータを「C*** ¥***E」のように変換します。

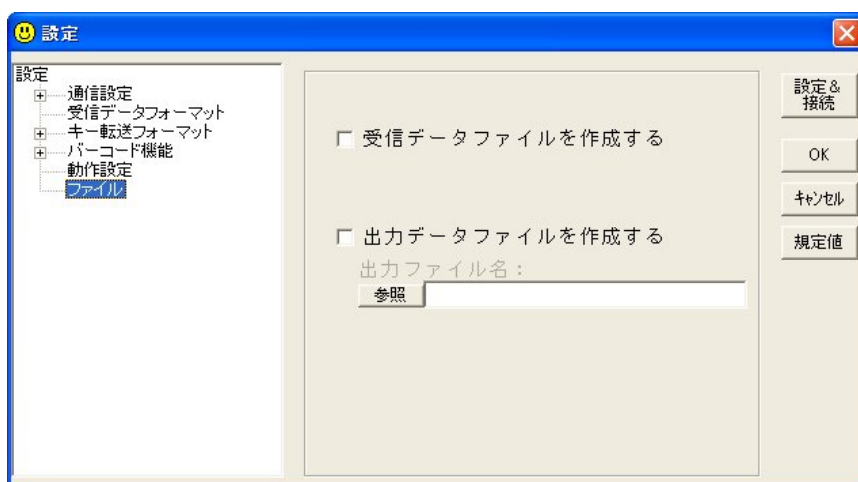
4-5. 動作設定画面



COMdeKEYの動作設定です。

ポップアップメニューロック : SHIFT キーを押しながらアイコンをダブルクリックしないとメニューが起動しないようになります。設定をユーザー側で変更されないようにする時などに使用します。

4-6. ファイル設定画面



ファイルの設定です。

- 受信データファイルを作成する** : 受信データを作成します。ログが必要な時などに使用します。
※サイズ無制限ですので、作成には十分注意してください。
- 出力データファイルを作成する** : 転送用にデータ編集されたデータをファイルとして作成します。出力ファイル名を設定してください。
- 出力ファイル名** : 出力データファイルのファイル名です。

5. 高度なご利用方法

5-1. 上位側からのコントロール

上位側からCOMdeKEYを制御する場合、特定ファイル名をCOMdeKEYのプログラムがインストールされているフォルダにコピーもしくは作成することで制御できます。

【プログラム終了】

FINISH.TXT

プログラムを終了します。再度起動する場合は、起動時に自動的に終了指示ファイルを削除しますので、プログラムを実行するだけで結構です。

【キーボード転送禁止指示】

DONTKEY.TXT

キーボードの転送を一時的に停止します。転送禁止を解除する場合は、ファイルを削除してください。

VBでのサンプルコード

COMdeKEYを「C:¥Program Files¥COM de KEY¥」にインストールした場合です。

'**** 起動例 ****

```
Private Sub Form_Load()
```

```
    Dim IDProcess As Long 'プログラム起動パラメータ
```

```
    IDProcess = Shell("C:¥Program Files¥COM de KEY¥ITCW.exe", 1)
```

```
End Sub
```

'**** 終了例 ****

```
Private Sub Form_Unload(Cancel As Integer)
```

```
    '終了ファイル作成
```

```
    Open "C:¥Program Files¥COM de KEY¥FINISH.TXT" For Append As #1
```

```
    Print #1, " ";
```

```
    Close #1
```

```
End Sub
```

5-2. 2キーを組み合わせて送信

COMdeKEYは、転送データに{C+A}のように設定して頂くとCtrl+Aの2キーを押したイメージのキー入力イベントを発生できます。先頭や末尾に加える場合は、『キー転送フォーマット』にあります『プリフィックスデータ』、『サフィックスデータ』のテキストボックスに直接入力してください。

『文字列の置き換え』、や『固定サイズデータ編集』、などの編集機能でも設定可能です。『文字列の置き換え』、や『固定サイズデータ編集』の場合は、『キー転送フォーマット』→『キー入力トラブル対策』にあります『{}をデータとして扱う』のチェックを外してください。

Shiftキー、Ctrlキー、Altキーのいずれかと数字、アルファベットの2キーを同時押したイメージでキー入力できます。

Shiftキー+? : {S+?}

Ctrlキー+? : {C+?}

Altキー+? : {A+?}

※?には、0~9、A~Zを半角文字で設定してください。

6. こんなときは？

<トラブル>

■COMポート接続に失敗する。

下記の順序で確認を行ってください。

- (1) 自動接続しているCOMポートが接続したい機器と一致しているか確認してください。一致していない場合は、「接続可能なポートを自動検索」のチェックを外してください。
- (2) COMポートを使用しているアプリケーションが他にないか確認してください。
- (3) デバイスマネージャで、設定したCOMポート番号が「このデバイスは正常に動作しています。」となっているか確認してください。
- (4) 通信設定が接続機器と一致しているか確認してください。
- (5) 「ストップビット 1.5」などハード側で使用不可能なものがないか確認してください。
- (6) ボーレイトを遅くして使用してください。機器によってご利用出来ない速度があります。

■データが文字化けする。

モニタ表示で受信データを確認してください。受信データと読み込んだデータが一致していなければ、通信設定が接続機器と一致していません。通信設定を確認してください。

一致している時は、設定の「キー転送フォーマット／キー入力トラブル対策」で、1キー毎の押下時間を増やしてください。

■キー入力でデータの順番入れ替わっている。

設定の「キー転送フォーマット／キー入力トラブル対策」で、1キー毎の押下時間を増やしてください。

■キー入力先のアプリケーション動作がおかしい。

アプリケーションによっては、“CR+LF”などコードで送られると違う意味で割り当てられているものがあります。

特殊コードを削除する（置き換えで空文字列にして削除する／バイト位置で削除する）、受信データフォーマットでプリフィックス・サフィックスを抜き出すなどして、特殊コードが送られないようにしてください。

<設定・利用方法>

■COMdeKEYの起動、終了をコントロールしたい。

「5. 高度なご利用方法」の「5-1. 上位側からのコントロール」を参照してください。

■エクセルなどでデータを同じ列上に入れていきたい。(データの後にTABキー付加)

- (1) 設定の「キー転送フォーマット/サフィックスデータ」で **KeyBoard** ボタンを押してください。「特殊キー設定画面」が開きます。
- (2) **TAB** ボタンを押してください。サフィックスデータに“[TAB]”と表示されます。
- (3) **OK** ボタンを押し、設定を保存してください。

■“a88888888a”のスタート/ストップコード a を削除したい。(“88888888”)

- (1) 設定の「キー転送フォーマット/文字・文字列を置き換える」にチェックをつけてください。
- (2) **編集** ボタンを押してください。設定画面が開きます。
- (3) 検索文字列で a と入力してください。
- (4) 同じ列上の右側に何も入力しないでください。"" (空文字列) となります。
- (5) **OK** ボタンを押し、設定を保存してください。

■“49012347”の国コードを削除したい。(1バイト目から2バイト削除、“012347”)

- (1) 設定の「キー転送フォーマット/固定サイズデータ編集」にチェックをつけてください。
- (2) **編集** ボタンを押してください。設定画面が開きます。
- (3) 開始位置に1、削除に2を設定してください。
- (4) **OK** ボタンを押し、設定を保存してください。